

2018年9月9日

福音書からのメッセージ

そして、天を仰いで深く息をつき、その人に向かって、「エッフアタ」と言われた。これは、「開け」という意味である。
(マルコによる福音書7章34節)

2000年前ユダヤの人たちは、救いのみ手を待ちわびていました。旧約の預言者も、その約束を記します。たとえばイザヤ書35章には、こうあります。

心おののく人々に言え。「雄々しくあれ、恐れるな。見よ、あなたたちの神を。敵を打ち、悪に報いる神が来られる。神は来て、あなたたちを救われる。」

そしてそのときには一体何が起きるのか。こう続けられます。

そのとき、見えない人の目が開き 聞こえない人の耳が開く。そのとき 歩けなかった人が鹿のように躍り上がる。口の利けなかった人が喜び歌う。

イエス様は今日の箇所、耳が聞こえず舌の回らない人をいやされました。聞こえない人の耳が開く、そのことが実現した瞬間でした。これはユダヤの人にとって、神さまが救いの業を開始されたことを告げる大きな出来事でした。

今わたしたちは、このユダヤの人たちのように、心おののいているかもしれません。自然災害や恐ろしい事件など、わたしたちの周りには、「神さま、助けてください」と叫ぶざるを得ないことが数多くあります。その状況は2000年前のユダヤから何も変わっていないともいえるでしょう。本当に大切なものが見えず、神さまの呼びかけも聞こえない。しかしそのわたしたちの目と耳を開かせるために、神さまはイエス様を遣わされたのです。

今日の聖書の中で、イエス様は「エッフアタ」と命じます。これは「開け」という意味で、イエス様が使っていたアラム語の



言葉です。おそらく人々は、この「エッフアタ」という言葉はずっと大切にしていたことでしょう。最初は耳の聞こえない人だけに掛けられた言葉だったかもしれませんが。しかしイエス様の十字架と復活を経て、たくさんの人が「エッフアタ」という

声を聞いたのではないのでしょうか。

そして、「エッフアタ」という言葉を掛けられるその姿に、イエス様はわたしたちにどのように関わってくださるのか、気づかされます。イエス様は指をその人の両耳に差し入れます。ここで両手はふさがります。それから唾をつけてその人の舌に触れられるのですから、おそらくご自分に舌を重ねられたのでしょうか。これがイエス様の関り方なのです。熱を出してしまった子どもを見て、思わず自分のおでこを相手のおでこに重ね合わせたことはないでしょうか。痛みに震える人の体を、優しく、しかししっかりと抱きしめ、一緒に震えたことはないのでしょうか。

イエス様は、そのようにわたしたちに関わってくださるのです。わたしたちの弱い部分を感じ、身体ごと包んでくださる、それがイエス様なのです。

暗闇の中、心が沈んでいるときには、どうぞ「エッフアタ」という声に耳を傾けてください。「大丈夫、そばにいるから」というイエス様を感じてください。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>